

全大教合同地区別単組代表者会議に出席して

問題山積 仲間をふやして解決へ

副委員長 黒瀬一弘さん



去る10月27～28日に北海道大学で開催された全大教合同地区別単組代表者会議に出席してきました。13単組・24名が出席し、全大教からは文科省の政策についての説明を受け、その後各大学が抱える問題点について問題共有・意見交換をしまし

た。全大教からの説明の中で特筆すべきは、「国立大学における人事給与マネージメント改革」でした。「人事給与マネージメント改革」では年俸制の導入が推進されます。文科省は年俸制導入と退職金支給に関するモデルケースを作っています。必ずしもその通りの制度にする必要はないのですが、各大学はそれを参考に自らの年俸制拡大のスキーム作りを現在行っていると思われま

たのは、無期転換問題、働き方改革、振替休日適切な時期に取れないこと、不払い労働問題、改組に伴い人員が削減され教職員のメンタルヘルスが悪化したリパワーハラスメントが深刻化していることなどでした。全ての単組に共通している問題は組合員拡大でした。今後大学を取り巻く環境が複雑化し、それに伴って多くの問題が噴出することでしょう。それらを解決するには組合の存在が不可欠です。知恵をさせる必要があります。

2019年国民春闘討論集会に参加して

自分たちの働き方を考えよう

書記長 千葉裕輝さん

今回の春闘討論集会は、あいにくの天気の中、遠刈田温泉のさんさ亭において16単組47名の参加で行われました。

であったとの感想を得ました。参加した各組合からは、高校再編の問題や公務職場における各種ハラスメント問題についての報告があり、東北大職組からも、非正規職員の雇止めについて、高橋書記次長から現状報告と支援の訴えがなされました。

教員からは、昨今問題となっている部活動に係る時間外勤務の話題等が報告されました。代休や振休が取りにくいなど、同じ教育の場で働くものとして共感できる報告も多くありました。自分達の働き方を考え、待遇改善を目指したいと思いま

労働総研事務局長でもある桜美林大学の藤田実教授の講演では、日本経済の歪みなどについてのお話でした。非常に中身の濃い講演

2日目は3会場に分かれたの分科会でした。働き方や組織拡大などについて2時間ほど活発な討論が行われました。

た。



活発な討論が行われました

私、働き方の問題にかかわる分科会に参加しましたが、高校の

女山原発の再稼働の是非を問う
県民投票条例制定を求める署名

114,303筆

集まりました